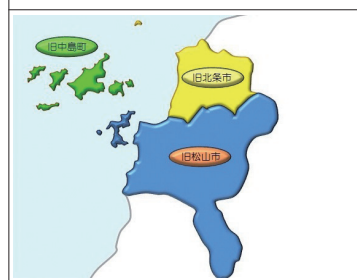
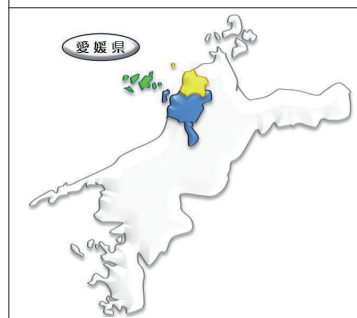
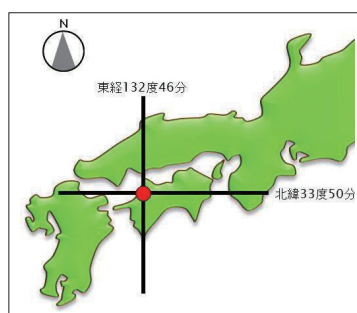


松山市型・消防団員確保への取組

愛媛県 松山市消防団

はじめに

松山市は、愛媛県の中央部にあり、四国山系の霊峰石鎚山やこれにつづく山々に端を発する重信川と石手川により形成された道後平野と、先の市町合併により加わった瀬戸内海国立公園の明媚な9つの有人島からなる中核



都市であり、温暖な瀬戸内海気候に属する比較的穏やかで恵まれた土地柄です。市の中心部には、日本最古の湯である道後温泉が湧きだしています。

松山市消防局は、昭和23年に定数17名の消防本部として発足し、現在では1局（4課）4消防署5支署2出張所、定数458名で消防防災業務を行っており、管轄面積429.06km²、管轄人口514,559人となっています。また、松山市消防団は、昭和22年に警防団から消防団へと改名され、現在では1本部9方面隊41分団、定数2,501名で地域防災の要として活動しています。（平成25年4月1日現在）

女性消防団員及び機能別消防団員導入の経緯

消防団の業務は、従来の火災消火を主としていましたが、地震や風水害等がひん発、大規模化する昨今において、住民の目が消防団に向けられ期待されるようになり、地域住民が求める消防団の役割が増大しています。災害時はもちろん、平常時においても自らの活動に対する訓練、研修、調査の他、住民への指導、啓発、広報等といった活動の拡大とそれに伴う負担が大きくなっているのが現状です。

一方で、消防団員の被雇用者化や高齢化、過疎化などの影響を受け、団員数が減少していることを重要な問題

と捉え、地域防災はもとより、コミュニティーにも欠かせない消防団を存続させるために、防災業務すべてに関わる伝統ある基本団員の活動の一部を補完することで負担を軽減するとともに、地域防災力の底上げを目的に、職種や年齢、性別を消防団活動に活かした女性消防団員や全国初となる機能別消防団員を採用しました。

女性消防団員及び機能別消防団員の活動

【女性消防団員】

市民に対する防火防災指導、応急手当講習といった普及啓発活動や大規模災害時の避難所運営等の後方支援を担うことで基本団員の負担を軽減するとともに、消防団活動において女性の視点も非常に重要であり、女性らしいきめ細かな気遣いと対応を行うことを主な役割とした。



役割：（平常時） 応急手当の普及啓発、防火防災や団員募集等の広報活動
（災害時） 避難所の運営や応急手当などの後方支援活動

【郵政消防団員】通称：ファイヤーポストマンチーム

職務上、地域に精通している郵政職員が、大規模災害時には優先情報の収集や適切な避難誘導を担うことで、最前線で活動する基本団員の人員を確保する。



役割：（平常時） 応急手当講習の受講
（災害時） 災害情報の収集や避難誘導

【大学生消防団員】通称：大学生防災サポーター

若手団員を確保し、消防団活動を充実させるとともに、大学生自身が消防や地域防災に関心を持ち、卒業後は地域の消防団への入団や将来の防災の担い手となることを期待するもの。

役割：(平常時) 応急手当講習の受講、応急手当の普及啓発、防火防災や団員募集等の広報活動

(災害時) 避難所での物資配布や応急手当などの後方支援活動



【事業所消防団員】 通称：ネッツトヨタ瀬戸内チーム、フジファイヤーチーム

被雇用者団員の増加に伴い、事業所に協力を求め、日中の消防団活動に空洞化が生じている地域の分団の日中活動人員を補完することにより強化を図るもの。



役割：(平常時) 所属分団において、放水訓練、応急手当講習の受講

(災害時) 事業所の就業時間である日中限定で、その地域の分団員として火災等の災害に出動

【島嶼部消防団員】 通称：アイランドファイヤーレディース

過疎化、高齢化が著しい島嶼部において、被雇用者団員が不在となる日中に、地域の女性が消火活動や応急手当等を実施することにより強化を図るもの。

役割：(平常時) 所属分団において、放水訓練、応急手当講習の受講

(災害時) 日中に限り、所属分団の災害に出動し、消火活動と応急救護活動



トリー・ビバレッジ・サービスでは「がんばれ消防団」とラッピングした自動販売機を市内10カ所に設置し、売り上げの一部を消防団へ寄付していただいています。

進化する消防団

大規模地震や近年の局地的な豪雨等による災害発生時はもとより、平時における救助事案や障害物の除去が必要な事態に備えるため、平成25年5月に「機動重機消防団」を創設し、地域の消防団員の所有する重機等を活用することで、より迅速な救助活動を行う体制を構築しました。

また、平成25年11月には大学生消防団員「大学生防災サポーター」に愛媛大学吹奏楽団が入団し、全国で初めてとなる機能別消防団員による「松山市消防団音楽隊」を結成しました。これにより、各種の防火防災イベントにおいて音楽を交えた広報や啓発活動を行うとともに、大規模災害時における避難所活動を支援する人員をさらに加えました。



消防団を応援する体制

自分の危険を顧みず、地域の安全安心を守っている消防団員を市全体で応援しようという「まつやま・だん団プロジェクト」を平成24年4月から開始しました。これは顔写真・氏名等を入れたIC機能付カードを消防団員証として全団員に配布し、応援事業所で提示すれば料金割引など特典が受けられるというもので、現在、市内の百貨店や飲食店などの106事業所に応援をいただいています。また、このプロジェクトに賛同いただいたサン

まとめ

本市では、基本団員の確保と充実強化を軸に、機能別消防団員の導入などの様々な対策を講じることで、地域防災力の向上を図っています。しかし、発生が危惧されている南海地震のような大規模災害に対応するためには更なる強化が必要です。今後においても、消防団を核として、市内結成率100%、防災士数全国一である自主防災組織や企業、団体との連携を深め、より一層、地域防災体制を強化してまいります。